

香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第24号

2006.7



「楽しいプールあそび」

## 目次

- ・小学校研究発表会報告 P 2・3
- ・中学校研究発表会報告 P 4・5
- ・幼稚園では P 6
- ・養護学校では P 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） P 8・9
- ・坂出学園 4月～7月のあゆみ P 10



# 「思考力」をはぐくむ学びの創造 －脳科学研究との連携、授業力を高める校内研修－

5月25日(木)、26日(金)の両日、第90回教育研究発表会を開催いたしましたところ、県内外より、800名を超える熱心な参会者を迎え、盛会裏に終えることができました。

子どもの「思考力」をはぐくむために、「これまで教師の勤や経験知に頼っていた授業づくりを脳科学研究の知見と関連付けること」「授業者だけでなく、参観者も授業力を高めていける校内研修の在り方を探ること」の2つの視点から、研究授業や協議会を通して提案いたしました。

また、1日目の午後は鳴門教育大学の村川雅弘先生、東京大学の秋田喜代美先生、国立精神・神経センターの中村克樹先生をお招きしてのシンポジウム、2日目の午後は東北大学の川島隆太先生によるご講演と本校の研究の価値や課題についてご示唆をいただくことができました。

以下に、一部ではありますが、研究会の様子を紹介いたします。

### 朝のドリルタイム

音読や計算をすることで脳が活性化することが近年の脳科学研究によって明らかにされています。本校では、音読や計算などのドリル学習による効果を授業内容の定着に生かせるよう、適切な時程や実施時間の研究に取り組んでいます。

今回の研究会では両日も午前中の授業前にその一端を公開いたしました。理科や体育の授業前に音読をしたり、図工の授業前に算数のトレーニングシートをしたりすることは、一見、奇妙な組み合わせのように思われます。しかし、私たちはこの活動を行うことによって、授業開始から活発な意見交流ができたり、想像力が高まったりしているように感じています。実際、参会された先生からも「子どもがいきいきしていた。取り入れてみたい。」といった感想をいただきました。

今後、実践研究を続け、データを用いた客観的な検証も行おうと考えています。



### 5年理科 「探ろう！ 植物の発芽と成長に適した条件」(5年)

第5学年の理科学習で育成したい科学的な思考力として、「自然事象の変化に関わる複数の要因のうち、1つだけを変化させ、他を制御しながら計画的に追究していく能力」があります。

本時は、「情動」と「試行錯誤」に関する脳科学の知見を生かしながら、発芽した後のインゲンマメを大きく成長させるために必要な条件について追究する学習を展開しました。

まず、「自分が主体となって追究していきたい」という意欲(=情動)を喚起できるよう、一人一人に「温度」「空気」「日光」などの条件の中から、調べたいものを1つ選ばせ、実験方法を考えさせるようにしました。そして、各々の考えた実験方法をグループや学級全体で発表し、吟味する場を確保しました。「成長には日光が必要かどうかを調べたいけど、日光を当てる、当てないで、温度の条件まで変わってしまう。」「置く場所を工夫したらどうかな。」といった話し合いの中で、計画的に追究するための実験方法について、学んでいくことができました。





## 6年総合（未来） 「なりたい自分をさがそう」

Eメール〇×クイズを行い、なぜそうすることが大切なのか、「マナーやルールが守られていないEメール」を基に理由を話し合い、自分のEメールの文書を修正しました。子どもはこれまで、なりたい仕事を選び理由を話し合ったり、大人が働く理由をインタビューして自分と比べてたりしてきました。そして、Eメールで質問を受けて下さる職場の方を探し質問メールを作成しました。本時は、国語「依頼の手紙を書こう」で学んだ「内容面と形式面に目を付けて文書を校正する」ことに関する思考様式を転移・活用しました。授業では、Eメールには手紙とは異なるマナーやルールが存在することに気付きました。敬語等、手紙同様に気を付けることに加え、件名の書き方や段落の分け方等、Eメール特有のマナーやルールに照らして、自分のEメールを修正しました。アナウンサー志望の子どもに届いた有名アナウンサーの返信メールを紹介し、さらに意欲を喚起しました。



## シンポジウム 「脳科学と教育、その連携の可能性」

1日目の午後には、ゲストとして中村克樹先生、秋田喜代美先生、コーディネーターとして村川雅弘先生をお招きして、シンポジウムを開催しました。

第一部は「脳科学研究の進展について」、第二部は「授業づくりと脳科学の連携」、第三部は「今後の展望」と位置付け、国立精神・神経センター神経研究所部長である中村先生からは「脳の前頭葉が人間としての特別な命令を行う部分であり、バランスの取れた人間となるためには前頭葉の発達が大切である」、東京大学大学院教育学研究科教授秋田先生からは「教師の専門性とは、脳科学を一つの手がかりとして、子ども一人一人が見えるような実践をすることである」、さらに、コーディネーターの鳴門教育大学学校教育学部教授村川先生からは、「子どもの思考まで考えた授業づくりをしているからこそ、子ども一人一人が見えた授業になっている」というお話に加えて、今後の研究の方向性についてもアイデアを頂くなど、それぞれの立場からの貴重な御意見をお聞きすることができました。



## 講演 「脳を知り、脳を育む」

研究会2日目午後には、川島隆太先生（東北大学）より、上記の演題で、ご講演をいただきました。

人間ならではの脳、前頭前野をよりきちんと働くようにするためにも「読み・書き・計算を行う」「コミュニケーションを行う」「目的をもって手指を使って何かを作る」ことが大切であり、前頭前野がきちんと働くようになることが「生きる力」を育てることにつながることをお話いただきました。

また、「なぜ学ばなければいけないか」という子どもから問いかけに対しては、学校での活動をきちんとすることが、生きる上で大切な脳を鍛えていることを、脳科学研究からのメッセージで示すことができることを教えていただきました。

今回の講演で学び得たことを、今後の研究に生かして参りたいと思います。



# 豊かな学びを育むトータルカリキュラムの創造 「生きること」と「学ぶこと」の統合をめざして

6月9日（金）、平成18年度附属坂出中学校教育研究発表会が盛大に行われました。

当日は、県内外の小・中・高、大学及び教育関係機関より600名を超える参会者をお迎えして、本校の教育実践をご覧いただくとともに、これまで取り組んで参りました研究を広く全国に発信しました。

今回の研究発表会では、「生きること」と「学ぶこと」の統合をキーワードとして、大きくは次の2点、「ユニット化」及び「学びの意味化」を提案いたしました。

## ユニット化

「生きる力」を育むためには、各教科、道徳、特別活動の各領域を互いに補完させることにより、人間形成的な視野を含んだ有機的なカリキュラムづくりが求められます。

そのために、五大大行事「校外学習（歩く日・宿泊学習・修学旅行）、平和学習、運動会、文化祭、送別芸能祭」のそれぞれに関連した教科や道徳の内容を設定したり、各学年の発達段階や重点的なねらいに応じて各領域を結びつけたりするユニット化を図りました。

### 1年テーマ：人とのかかわり

#### 1・2組「仲間づくりで大切なもの」、3組「相手も自分も気持ちよいコミュニケーション」

期待と不安の中で始まった中学校生活を充実したものとするために、まず認め合い信頼できる友人関係や協力できる集団づくりについて4月当初の校外学習「歩く日」



からの流れをふまえ、道徳、学級活動の授業公開をいたしました。どの場面でも、生徒たちがさまざまな立場に寄り添った意見を出し、考えを深めることができました。

### 2年テーマ：自己の生き方・在り方 2年生全員「将来の夢」～私の職業選択～

1年間の中学校生活を終え、子どもから大人への成長が心身ともに図られていく2年生。集団を基本に、自己の生き方、在り方を問い始める時期でもあります。学校での学びを将来どのように生かし、自己実現を図ろうと考えるか。パネルディスカッションによって、自分の夢を職業観と結びつけながら意見を組み交わし、よりよい自分像を模索することができたと思います。



### 3年テーマ：平和・人権 3年生全員「平和の尊さ」

修学旅行長崎で学んだこと・感じたことを通して、平和に関する自分の考えをまとめました。それらを学年全体で「平和の誓い」として集約し、その思いを、各国大使館へと発信することを通して、国際的な相互理解へ広げようとしています。授業では、グループの調査をもとに平和に関する討論学習を学年全体で行いました。各発表グループの内容も提案性の高いものでしたが、フロアーからの質疑応答も鋭く、的を射た発言が繰り返されました。





## 学びの意味化

「確かな学力」といえば、基礎・基本の習熟と徹底がまず思い浮かびます。しかし、一方では、それが画一的な知識・技能を無意図的に記憶させることのみで終始してしまうと、結果として、生徒は学びの目的や価値を見いだせず、学ぶ意欲を喪失してしまうかもしれません。

こうしたことを私たちは謙虚に受けとめ、「『学びの意味化』を促す学習構造」として、そこでの学びで身に付けた知識・技能、体力、合理的な思考、判断、芽生えた心情、態度などが、どれほど価値あるものかに気付かせる授業を開発すると同時に、より効率的に学びの意味を実感させる手だてとして、単元内での学びの質的内容をもう一度分類・整理し直しました。



各教科の公開授業後には、参会の多くの方から心温まる賛同の声が寄せられ、私たちの大きな励みとなりました。これも、本校生徒一人一人の頑張りや各校園の諸先生方、そして保護者の皆様のご理解があつてのことと深く感謝し、これからもこの実践を坂出から全国に発信していきたいと思っております。ありがとうございました。

### 研究開発指定について（お知らせ）

平成18年度～20年度まで、文部科学省より研究開発指定を受けました。

主な研究の内容は、「生徒一人一人の発達や学びの状況に適応した教育課程を創造するため、中学校1年生から3年生を対象に各教科学習における異学年合同の発展的な学習を導入した場合の望ましい教育課程システム、学習内容、指導法等に関する研究」であり、将来の学校教育の在り方に深く関わる内容であると考えています。今年度の実施期間は後期（10月）から約2か月程度とし、その間、発展的な学習や補充的な学習を異学年合同で実施します。

# 見つめよう 子どもの生活

## —自分でできるよ!—

### 生活習慣，どうなっているのかな

幼児健康度調査の報告によると、子どもが夜更かしになっていること、朝ご飯を食べない子どもが多くなっていること、外遊びが少なくなっていることなどが課題としてあげられています。また、園生活では、生活習慣の自立の遅れや、一日の生活の始まりがスムーズにいかない実態も聞かれます。幼児期は、自分の心や体について興味関心が強く、人から聞いたり、本を読んだりしたことが新しい発見であり、どんどん吸収していく時期です。5歳児では、生活習慣については、自分のことが自分でできるようになり、やれたことに満足するころでもあります。幼稚園では、正しく知ることと、それが行動につながることで自分の生活を、自分の手で進めていこうとする力を育てたいと考えています。

#### 生活の仕方

- 5歳児 生活習慣の基本的なものは、ほぼ完成する。  
できない場合は、あせらず、一つずつ目標を立てる。
- 4歳児 生活の仕方がわかり、できることは自分でしようとする。自己主張や反抗が強く、大人と衝突することもある。しようという気持ちを見守る。
- 3歳児 大人と一緒に行動することや、していることを見て生活習慣を身につけていく。生活習慣を豊かに与えていく。できることが快いという気持ちを基盤にする。



### 元気のもととはなかに

生活習慣（5歳児の健康教育）



絵本『ピーマンマンとよふかし大まおう』の一部を使って！

「ピーマンマン知ってるかなあ？」と問いかけてみました。4～5人の子どもが知ると手あげました。バイキンをやっつける不思議な力を持っているピーマンマンが、お日様のひかりと朝の新鮮な空気をもとに夜更かし大魔王をやっつけるお話を、みんな真剣に聞いているようでした。

「もうひとつの元気のもととはなかに」と問いかけてみました。なかなか、答えができません。「みんな、おなか为空いたら元気がでる？」と聞いてみました。「そうだ、朝ご飯だ」**元気のもと**は **朝のひかり・朝の空気・朝ご飯**という合い言葉になりそうです。

生活の深夜化は、子どもにも大きな影響を及ぼし、大人の生活時間に合わせて夜遅くまで起きている子どもの実態があります。。自分の生活に関心を持ち、問題に気づく力をつけたいと考えています。



## 手をつなぎ、競争したよ、踊ったよ！ 春季運動会

あいにく前日から雨模様。しかし、早朝から先生方の人海戦術で、水浸しのグラウンドも見違えるように美しく整地され、定刻どおり運動会がスタートしました。

いつもながら、養護学校の運動会は、卒業生の種目あり、地域や附属の小・中学校の子どもたちの積極的な参加ありで、活気あふれています。また、保護者・来賓の共同種目も盛りだくさんで、府中町の方も景品配りを手伝ってくださったり、ゴールテープを率先して持ってくださいたりで、交流の輪も年々広がり、心温まる感動をいただいています。

「みんなで踊ろう」は恒例のラストプログラム。参加者みんなで手をつなぎ、うれしい歓声とともに大きな輪が運動場いっぱいになりました。子どもたちもリズムに合わせて踊る楽しさとともに、手をつないで心を合わせる喜びを体いっぱい感じとったことなのでしょう。参加してくださった方々、本当にありがとうございました。



「デカパン競争・小学部」



ラストプログラム「みんなで踊ろう」

## 初企画！ふれあいバザー

今年は、7月中旬から行われる耐震工事のために、例年11月に行われるふれあい祭りを前倒しして、春季運動会午後の部をふれあいバザーという形で企画しました。福祉ママの会、しあわせクラブ、府中ボランティアクラブ等地域の方々や卒業生親の会の皆様の多大なご尽力、ご協力をいただき、運動会後の食べ物バザーは大にぎわいでした。青年教室の皆さんや香川大学教育学部の学生の皆さんの若いパワーにも大いに助けられました。おにぎり、うどん、押し寿司、ちらし寿司、おでん、フランクフルト、かき氷、アイスクレープ、コーヒー、ジュースとメニューも多種多彩！心配

した天気ももちなおし、プレイヤードには家族の美味しく楽しい笑顔があふれました。



土曜クラブも5年目になりました。

クラブは附属4校園全体で交流し子どもたちに楽しい催しを提供する、保護者の自主企画で年に2～3回ほど行っています。

中でも、年末恒例行事の“坂出市光輝里フェスティバル”に土曜クラブとして出展している、透明なCDケースに描くあの作品作りは附属4校園で行っており、それらの作品がちりばめられたモニュメントは本当に素晴らしいものです。



坂出市光輝里フェスティバル

今年度から土曜クラブは幼稚園・小学校・中学校で担当を決め、合同で活動していくことになりました。また各学園にて行ってきた修繕・剪定など保護者の手で可能な範囲で行っている土曜メンテナンス、親子講習会など、子供だけの催しだけでなく保護者同士も交流が出来るような、少し範囲を広げた活動を行っていこうと考えています。もちろん、いままで行ってきた催しも続けて行っていきます。

今年度第1回目として6月10日に小学校新1年生と保護者を対象にしたウェルカムパーティを開催しました。疎遠になりやすい保護者同士、これからの9年間を同級生として一緒に過ごすことになる親子としての交流の場を提供するのが目的です。30組の参加があり、親子ゲームで楽しんだり保護者懇談をして、相互交流を深めることが出来たと思っています。このパーティで食されたパンは、丸亀市飯山町の『野の花』というお店で、附属養護学校の卒業生の方々も一員として一生懸命作られたパンです。ソフトでおいしいパン屋さんとして地元では有名です。



親子ゲームで楽しみました

次回は、保護者が抱える様々な悩みを少しでも軽くする相談ミーティングを中学校で開催する予定です。また、土曜メンテナンス、さらに附属4校園合同で開催できるものをリサーチ中です。

土曜クラブでは、ボランティアとしてお手伝い頂ける方を募っています。保護者の皆さん、ぜひ知恵を貸してください。色々な企画をし、一緒に遊びながら相互交流を深めませんか？



保護者懇談で親睦を深めました

☞ 詳しくは土曜クラブのホームページを一度ご覧下さい。

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~sakasho/doyouclub/doyou.htm>



## 幼稚園より 「おかあさん ねえ、よんで！」～保護者の方による読み聞かせの時間～ ……

幼稚園青組では、福岡教育大学での講演に感銘を受けた担任九郎座先生の呼びかけに応じて、今年5月から保護者の読み聞かせをほぼ週1回行っています。

初心者のおかあさん方に、読み聞かせのポイントを先生が教えてくださいました。

- 美しい文章と芸術的にも優れた挿絵の本を選ぶ。
- 表紙から裏表紙まできちんと読む。
- 教え読み（これはこういう事よ）や質問（どう思う？）をしない。
- ゆっくり読み、声や表情でおかあさんのあたたかさを伝える。

第1回の読み聞かせでは、まず絵描き歌で子どもたちのハートをつかみ、その後2人のおかあさんが1冊ずつ本を読み聞かせました。子どもたちは、耳をすませておかあさんの優しい声が紡ぐお話に聞き入っていました。たった20分ですが、子どもたちもおかあさんも密度の高い時間に満足していました。青組の活動として定着していきたいものです。

## 小学校より ……

5月22日、常任委員会を開催し、今年度の組織・方針・取り組み、既に始まっている各部会の報告がありました。大きな転換として、学校安全委員会から、昨年度まで月1回だった登校時の立哨を、1・4・5年の常任委員、安全委員、松韻会役員のローテーションで毎週月曜日に行う事が報告されました。

6月5日、同年の子どもの現状や親の悩みの意見交換のため、授業参観時に学級懇談が開かれました。今回は常任委員を進行役に保護者交流を主な目的として進めましたが、今後は保護者のニーズにあった形で継続して開催する予定です。気軽に相談し合えるクラスづくりにご協力ください。

## 中学校より ……

4月28日（金） 鳴門教育大学附属中学校にて四附連が開催されました。中学校からは実践活動協議会に役員5名参加しました。いろいろな内容を協議した中で、他県のPTAの方から携帯メール連絡網についての質問（導入方法・使い方など）が多くありました。現在中学校では、プリント配布などの連絡を随時携帯メールで保護者の方に連絡しています。まだ未登録の保護者の方は是非登録をお願いします。

6月9日（金） 中学校にて研究発表会が開催されました。中学校役員7名・3年常任委員12名の方たちに手伝って頂きました。「生きること」と「学ぶこと」の統合をめざしてをテーマに子どもたちも真剣に取り組み大変好評でした。

## 養護学校より ……

### 新体制スタート！



香川大学教育学部附属養護学校 親和会会長 竹田 智香

新年度がスタートし、4月26日に親和会の最初の行事でもある総会を無事終えることができました。昨年度は副会長として会長をサポートしてきましたが、今年度は会長職をお引き受けし、心機一転、さらに「親和会」を盛り上げていこうと思っています。

「魅力ある親和会」をめざし、私たち保護者同士がまず、しっかりコミュニケーションをとりながら、笑顔を絶やさずに楽しく活動

していけることを願っています。そして一人でも多くの保護者が親和会の活動に積極的にかかわって、ともに歩んでほしいと思います。また、平成16年度から親和会の組織改革に取り組んできましたが、今年度はさらに涉外、研修、文化、運動、行事の各運営部を部長1名、副部長2名の体制に改編し、各部のよりスムーズな運営につなげていきたいと考えています。

7月からは耐震工事が始まり、子どもたちにとっては大変な時を迎えます。子どもたちのために親和会としてできるサポートに力を注ぎたいと思います。また、学校や先生方との信頼関係を築くことはもちろん、松韻会の皆様との連携も強め、親和会活動のためのより良い環境作りに努力したいと思います。



プール開き

6月2日金曜日。プール開きを行いました。少し肌寒く感じる日でしたが、子どもたちは元気いっぱい久しぶりの水の感触を味わっていました。



屋島集団宿泊学習

6月8日木曜日、9日金曜日。5年生79名は、屋島少年自然の家に1泊2日の宿泊学習に出かけました。初日の夜は雨のためキャンプファイヤーは、キャンドルサービスに変更しましたが、その他の活動は予定通り行うことができました。フレンドシップで参加した大学生とも仲良くなり、たくさんの思い出ができました。



小学校

カレーライスパーティーに向けてー

「ジャガイモの収穫」

青組が、ジャガイモを6月8日に収穫しました。毎年この時期になると、畑で植えているジャガイモをみんなで掘り起こします。今年は、豊作でした。大きいジャガイモはカレーライス用に残しておいて、小さい小さいジャガイモは、みんなでゆでていただきました。おいしかったよ。



「カレーライスパーティー」

お誕生会もかねて、6月16日にパーティーをしました。幼稚園畑でとれたジャガイモや青組さんがもってきたニンジンやたまねぎなど…。お母さん方に手伝ってもらいながらつくった青組オリジナルカレーは、みんなにとても好評でした。誕生会では、夏らしい魚釣りゲームを楽しみました。



幼稚園

地域との交流を深めて 養護学校

毎年4月に、校内で交通安全教室を行っています。今年は、坂出警察署の交通課の警察官の方と、府中駐在所の駐在員さんにご指導をいただきました。



体育館で、交通安全についてのお話をいただいた後、スクールバス通学生、JR通学生、自転車通学生の3グループに分かれて、実地練習をしました。自転車通学生は、警察官の方と一緒に、自転車点検をした後に、実際に校外へ出て、安全な道路の通行の仕方、安全確認の仕方などをご指導いただきました。JR通学生は、学校から府中駅まで、府中駐在所の駐在員さんと一緒に歩き、横断歩道の安全確認の仕方、押しボタン信号の横断歩道の渡り方、駅のホームでの安全な過ごし方などについてご指導いただきました。



交通安全について、大切なことをたくさん教えていただきました。教えていただいたことをよく守り、安全に登下校していきたいと思っています。



これからもよろしく願います。

中学校 屋久島への修学旅行 (4月11～15日)

中学校では、屋久島及び長崎での平和学習を中心とした4泊5日修学旅行を行いました。日程は屋久島で2泊、長崎、福岡でそれぞれ1泊ずつというものでした。修学旅行当日は天候にも恵まれ、各自で選択したコースに分かれ活動を行いました。「屋久杉」など世界遺産にも指定されている豊かな大自然を十分に満喫したようです。



屋久島の大自然と共に

校内弁論大会(6月12日)

去る6月12日に「社会を明るくする運動」をテーマにした校内弁論大会が行われました。研究大会の翌週とあって、各クラスで代表者を定める時間さえなかなか取れない中で、弁士に選ばれた9名の生徒は、個々の意見をしっかりと言葉に乗せた表現力溢れるものでした。



校内弁論大会の開催

編集後記

去年は渇水のため、6月末にプール使用が中止になりましたが、今年は、7月中もずっと水泳の時間をとることができました。夏は、やはり子どもにとって水泳は楽しい一時のようで、プールでは歓声があがっていました。

さて、今回は、小学校・中学校の研究会特集を掲載していますが、今年は附属坂出学園4校園とも研究会を行い、また特別支援教室「すばる」の研究会も初めて開催します。

研究会続きの年ですが、皆様方のご協力、ご支援をどうぞよろしく願いたします。

発行年月日：2006年7月19日

発行事務局：附属坂出小学校内

編集担当者

塩田 知子 (附属幼稚園)  
 横山 新二 真鍋 佳樹 (附属坂出小学校)  
 環 修 十川 裕史 (附属坂出中学校)  
 岩本 豊 檉尾由美子 (附属養護学校)